

第一章

難しい音をどうやって正しく発音するか？

第一部

なぜ発音の練習は大事なのか？

1. 正しい発音をすることによって、誤解を避けることができます。日本語の癖をそのままポーランドに残すと、以下のようなおかしい間違いが起こってしまいます⁶。

「どうぞ」の代りに「ブタ」

「セーターがほつれる」の代りに「セーターがつばをはく」

「ほえる犬のせいで眠れない」の代りに「流れ落ちる犬のせいで眠れない」

「会社で働いている」の代りに「映画で働いている」

「講師になりたい」の代りに「学長になりたい」

「将来は通訳になる」の代りに「過去には通訳になる」

「ポーランドで初めて碾き割〔カシャ〕を食べた」の代りに「カーシャ〔人名〕を食べた」

「朝、私は店にいた」の代りに「朝、私は店で殴った」

「組織は戦う愛国者たちを集めた」の代りに「うなる愛国者たちを集めた」

2. 音声的な誤りは、しばしば書き言葉にも反映します⁷。間違っただけの発音している音を含む単語の表記に問題が現れるのです。例えば *warkoczyki*（三つ編み）という単語を、ポーランド語学科の学生達は、*walkoczyki*, *walkoczyki*, *walkończy*, *warkoczki*, *barkoczyki*, *balkoczyki*, *barokoczyki*, *barkocyki*, *barkocziki*, *barczoczyki* というように、実に 10 通りもの異なる方法で書きました。これらの表記は、w と b、r と l、y と i の混同、余分に加えられた母音、母音の無声化などの、発音上での誤りを反映しています。

3. 音声的な誤りは、時に文法的な間違いのように聞こえてしまいます。

„Urodziłem się w rok 2006” [私は 2006 年に生まれた] (主格 rok/前置格 roku)

„Nie mam przy sobie paszport” [私は今パスポートを持っていない] (主格 paszport/生格 paszportu)

„Chcę jechać od raz” [私はすぐに行きたい] (主格 raz/生格 razu)

„Pobyt w Polsce był przyjemne” [ポーランドでの滞在は楽しかった] (中性単数・非男性人間複数形 przyjemne/男性単数形 przyjemny)

„To moi koledze” [こちらは私の友人達です] (単数与・前置格 koledze/男性人間複数主格 koledzy)

⁶ ここに取り上げた例の大部分は、実際に学生が発言したものである。

⁷ A. Kijewska は、まさに書き言葉の分析を通して、ブルガリアの学生の発音問題を分析した。A. Kijewska (2001) を参照のこと。

4. 音の区別ができないと、ネイティブスピーカーの発言を理解するのが難しくなります。

練習の流れ

正しい発音は透明だ、ということがしばしば言われます。つまり、そこには「おかしな」ものや「異なる」要素が何もない、ということです。そのような発音は聞き手の注意を全く引きません。従って、発音練習の目的は、ポーランド人に良い発音を褒めてもらうことではなく、彼らが全く発音に注意を払わなくなるようにすることなのです。発音の練習には三つの段階が存在します。

1. 準備段階

この段階の目的の一つは、ポーランド語の発音をするために、調音器官（主に唇と舌）を準備することです。時にこれはなかなか大変な作業です。というのも、調音器官は日本語の発音をするのに慣れてしまっているのです、それをポーランド語の音用に「切り替え」なくてはいけないからです。この段階では、運動感覚・筋肉の訓練を行います。詳しくは次に述べます。これらの練習をきちんと行くと、舌、唇、そして頬までもが疲れるのを感じてでしょう。

この段階では、ネイティブスピーカーの助けを借りて、自分が、そもそも発音の誤りを意識しているかということ調べる必要があります。正しい発音と誤った発音の区別、例えばrとlの音の区別ができているのでしょうか。もし音の違いを聞き分けるのに問題があるようだったら、教師と一緒に練習しましょう。また、自分の発音を録音して注意深く聞いてみるのも良いでしょう。自分自身の発音の聞こえ方と、外に聞こえる音では異なるので、録音を聞く必要があるのです。このことで、発音の誤りを自ら発見することにもつながり、これが準備段階の二つ目の目的といえるでしょう。

2. 「難しい」音を正しく発音する段階

この段階では、第二部にのっている練習を行います。順を追って、一つ一つの音の正しい発音を丁寧に練習しましょう。最初は、練習している音が正しく発音できているという確信を得るためにも、ネイティブスピーカーのチェックのもと練習を行うのが良いでしょう。その後の練習は自分で行って構いません。大切なのは練習の順番を守ることです。この段階の目的は、音節、単語、そして文単位で、正しい発音を練習することです。しかし、ま

ずはそれぞれの音節をきれいに正しく発音できるようにしてから、より複雑な練習に進むようにしてください。

3. 定着と自動化の段階

この段階の目的は、正しい発音が完全に自動的に出てくるようにすることです。本書の第二章「練習用の資料」にのせてある短文を使って練習すると良いでしょう。難しい箇所を色付けするなどして、丁寧に練習しましょう。やはり、最初はネイティブスピーカーと一緒に読んで、自然な音読ができていないか確認する必要があります。調音に無理があつてはいけません。他の文章を読む時や、ポーランド語の授業で発言する時にも、自分の発音に気をつけるようにしてください。「難しい」音の発音がもはや苦勞ではなくなったと気付いたとき、目的を達成したことになります。「あなたの音」が「透明」になったのです。

ポーランド語の発音に関する全般的な注意

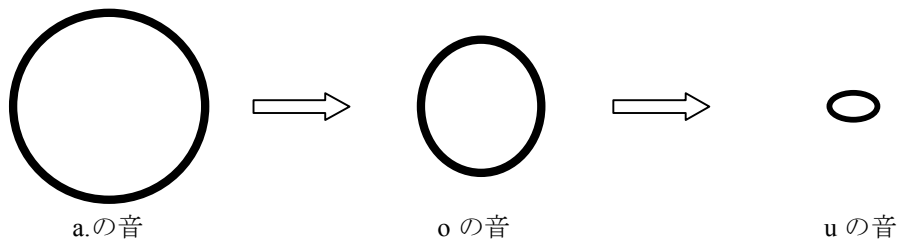
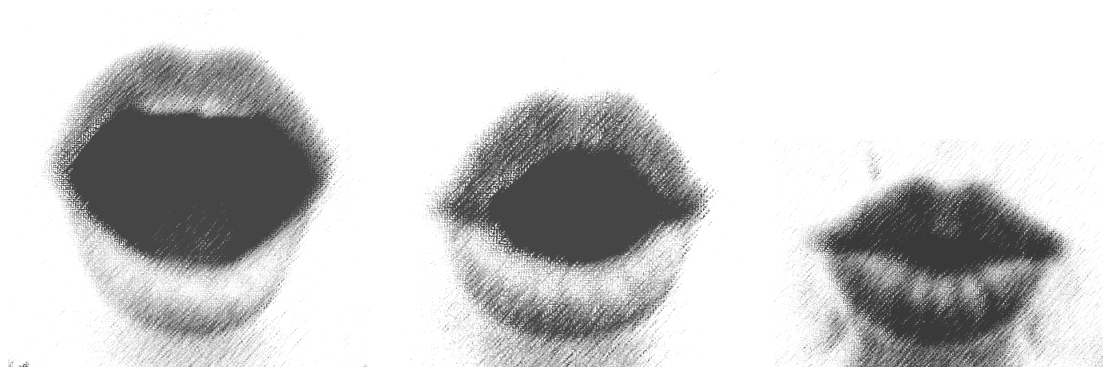
ポーランド語は子音言語です。テキストの 60%が子音なのです。つまり、ポーランド語で明瞭に話すのはある種の芸当だということです。以下に、ポーランド語の発音を簡単にするためのいくつかの事柄を挙げておきます。

1. 母音は発音の明瞭さを決定する要素なので、日本語を発音する時よりも口を大きく開けて発音する必要があります。
2. 母音は、とても丁寧に、誇張して発音する練習が必要です。鏡の前で母音を練習する時には、a-o-uと変化するにつれて唇が丸く前に突き出されていくのを、また、e-y-iの時には、平たく「笑った時の」形になっていくのを観察してください。
次の練習も行ってみてください。

- I. 紙を三枚、鏡、口紅を用意する。
- II. 口紅を唇に塗る。
- III. a の音を発音して、唇の形が残るように、紙に唇を付ける。

IV. o と u に関しても同様にする。

V. 紙に残った自分の唇の跡が以下の写真と似ているか確認する⁸。



3. ポーランド語を発音する時には、日本語よりも、舌と唇が激しく運動します。
4. 大きな声で発音すること。(語尾を小さな声で発音すると、発音が聞き取りにくくなります。)
5. 練習の初期は、ゆっくりと発音するようにしましょう。練習のテンポが速すぎると、調音運動の厳密性が損なわれてしまい、発言の明瞭さが失われてしまいます。
6. 話し言葉は書き言葉と異なります。話している時には、前後の音が影響を及ぼし合っ
て同化現象が起きます。ネイティブスピーカーの発音を聞き、チェックしてもらいながら
音読することで、自然な発音の練習に役立てましょう。

⁸ この方法により、学生の自然な唇型ができあがる。

運動感覚・筋肉の訓練

以下の訓練の目的は、舌の細かい動きを習得すること、舌の位置を素早く変えられるようにすること、唇をより活動的にすること、また、集中的に訓練をした後にその緊張を解くことです。練習によっては、日常生活の身近な行為や音を思わせる「名前」がついていません。

舌の訓練

1. 口を閉じたまま、上下の歯の表面部分を舌でぐるりとなめる。また、口を大きく開けて、口の周りをぐるりとなめる——「挽き臼」。
2. 上の歯一つ一つに、舌で順に触れていく——「歯数え」。
3. 舌を上歯の後ろ部分に持って行き、そこから軟口蓋の方へと後退させる。
4. 鼻とあごの方に向かって、舌を交互に突き出す。
5. 「熱々ジャガイモ」——熱いものを食べて舌を冷ます時のように、口を開けて力を抜いた舌を前に出す。
6. 舌の先を付きだして、左右の頬に交互に触れようとする。
7. 「パタパタ」——舌の先で、上下の唇に交互に素早く触れる。
8. 口を開け、だらんとさせた舌を下唇にのせ、次に力を入れて狭めながら前に突き出す。
9. 「舌鳴らし」——舌の先を硬口蓋に一瞬押しつけて、勢いよく放して音を鳴らす。
10. 上唇を上歯にかぶせるようにして強く押しつけ、それを舌で押し出すようにする。

唇の訓練

1. u の発音の時のように口を突き出して丸め、次に i を発音するときのように、ニッと笑うようにする。何度か繰り返す。
2. 両唇を突き出してチュッと音をたてる。
3. u の形にし、左右に動かす。

4. 唇のマッサージ。上歯で下唇を、下歯で上唇をかむようにする。
5. 「お魚」——魚が空気を捕らえるときのように唇をパクパクさせる。
6. 同じ調子で口笛を吹く。何度か繰り返す。
7. 唇を閉じて頬をふくらませ、勢いよく空気をはき出す。
8. 「馬の鼻鳴らし」——上下の唇を震動させて、ブルブルと音を出しながら空気をはき出す。

練習に際して

1. 発音練習は鏡の前で行いましょう。
2. 必要な人は、口と舌の練習を、丁寧にそれぞれ最低五回繰り返すこと。
3. 発音習得のためには、体系的に、一日に少なくとも 5-10 分は練習することが必要です。長すぎてもいけません。たまに長い練習をするよりは、短くても何度も練習する方が良いのです。
4. どの練習も、教師がまず手本を示すのが理想です。手本の形を与えられたら、鏡の前で練習しましょう。
5. 習得した語は、ひたすら反復、反復、反復——正しい発音は、かなりの数の繰り返しの賜物でしかありません。
6. 知り合いのネイティブスピーカーの発音を真似すること（アクセントやイントネーションにも注意して）。
7. できれば、ネイティブスピーカーのチェックのもとで音読の練習をしましょう。読む時には、自分にとってとりわけ難しい箇所、同化現象に気をつけ、また、句読点にも注意を払うこと（句読点は、長短のポーズを置く場所を示しています）⁹。
8. 出来る限りポーランド語の音に慣れるようにしましょう。できるだけ多くのカセットやCDを聞き、映画を見ること。聞いて理解できるようになること、そして自分の発音を自分の耳でチェックできるようになることで、正しい発音を身につけるのがかなり楽になります¹⁰。

⁹ 本書は基礎的内容が中心であるため（「難しい」発音の学習）、韻律（プロソディー）に関しては触れなかった。それは今後の課題となるだろう。

¹⁰ A. Seretny, E. Lipińska (2005)を参照のこと。